

公表

児童発達支援・放課後等デイサービス
事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援・放課後等デイサービスnoone			公表日	2026年 3月 20日	
環境・体制整備	放デイ / 共通	チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		国の設備基準である定員10名、児童1人当たり約3㎡以上のところ、ノーネでは指導訓練室、運動部屋合わせて約12㎡と、国の基準の4倍以上の設備となっている。	クールダウンのため個別ルームがあると良い。
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		「児童10人に対して2人以上の指導員」という国の配置基準以上の人員配置を常に行い保育士、臨床心理士、など児童分野での経験と専門性を備えた職員を配置している。	職員配置数だけでなく専門性の向上を目指す。		
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		・視覚でわかる工夫をしている。 ・施設内は段差がないようにしております。 また、すべての窓ガラスには飛散防止フィルムを張っており、扉には指はさみ防止カバーつけております。また、お子様の出入りが多い指導訓練室の扉にはドアクロージャーを取り付け、ゆっくりしまるようになっております。	クールダウンする部屋がおもちゃを保管する場と一緒に部屋になっているため、視覚や気持ちが悪く感じたりいかなとを感じる時がある。		
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		・清潔で心地よく過ごせるよう心がけております。 ・熱帯魚などがいることで子ども達がとても嬉しそうにしていると感じる。	事業所内の環境整備（整理整頓）を持続し物の管理を徹底していく。		
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		ご本人様の状況に応じて使用している。	個別の部屋にお子様の興味がかかれるものがある。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8		・職員全体で話し合う時間をたくさん設けていることがお子様達へのよい支援に繋がっていると感じる。 ・月1回職員会議を金曜日に行っており、それ以外の金曜日にケース会議を行っている。PDCAサイクルを心掛け、朝礼や終業前に全体で振り返りを行い、職員が共通の認識を持って支援を行えるよう取り組んでおります。	年度途中に見直しの機会を設けていきたい。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		・曜日利用の保護者だけではなく、全体に対して参加を募り、保護者会を実施した。 ・評価表による評価と公表し、意向を把握、改善に努めております。	保護者会でアンケートを実施し意向等を確認する機会を増やしている。今後も保護者様の意向を参考に改善していけるようにしたい。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		・職員会議や日々の終礼を通して意見交換を行っている。 ・職員全体で話し合う時間をたくさん設けてもらえていることがお子様達へのよい支援に繋がっていると感じる。 ・終礼、朝礼、職員会議の時間に共有を行っている。	年齢、経験問わず意見交換ができる環境を持続していく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	3	・市町村、他の事業所の意見を取り入れている。 ・ご利用者様からいただいた意見をサービスの質の向上を目指し、より質の高い支援の実現を考えている。	必要に応じて外部の方の意見を伺える機会を設けていく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	8		・基幹相談支援センター主催の研修に参加している。 ・同法人内の事業所と合同で行っている。 ・市の自立支援協議会が主催する研修に参加している。	職員が講師となつての内部研修をどの職員も実施できるようにしていく。	
11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		・ホームページに公表済み	HPへ公表している事の周知の徹底をしている。		

適切な支援の提供	共通	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8		・利用に際しての見学・体験・契約時に保護者面談を行いニーズを把握したり、行動観察を記録し、個別支援計画を作成しています。また利用後も児童発達支援管理者による保護者面談を行いお子様達の日々変わる発達状況を把握し、支援に活かせるようにしている。 ・相談支援所の相談員との定期的な連絡を取り支援計画や支援の現場に活かしています。 ・外部でとった発達検査の結果等でも発達状況を把握し、支援計画に活かしています。	保護者様のニーズと児童のニーズがずれてしまい、児童自身が自分の課題として分かっていない面もある為、適切な支援ができるようアセスメントを行っていく。
	共通	13	個別支援計画を作成するには、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		・ケース会議では職員が活発に意見を交換することができており、検討や改善につなげられている。 ・保護者面談前後に会議、共有を行っている。 ・面談前に職員間で会議を実施している。	全職員で支援会議をする機会をより多く作っていききたい。
	共通	14	個別支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	1	日々朝礼での振り返りや、ケース会議を行い、支援内容を日々更新している。	作成した計画については、ケース会議で共有を行なっているが、お子様全員について十分な時間を確保できていないため、別の共有方法を検討していく。
	共通	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		日々朝礼、終礼で共有を行い、必要に応じて、ケース会議を行っている。	細かな記録をとっていき振り返りができるようにする。
	共通	16	個別支援計画には、ガイドラインの「児童発達支援/放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		お子様、保護者様の意向を踏まえたうえで事業所で個別支援会議を実施し計画に反映している。	地域支援、地域連携については支援内容の設定ができていない。
	共通	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	1	・イベントごとに計画等を立てその都度話し合いを行っている。 ・職員会議で、次月のプログラムについて会議を行っている。	毎年新たな挑戦のできる活動を立案し実行していく。
	共通	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	1	・山登りや運動会など、月ごとに様々なイベントを企画している。 ・職員会議で、次月のプログラムについて会議を行っている。 ・エクササイズ、ヨガ、サッカー、リズムは現在曜日固定で行っているが、同じ内容になることはなく、続けていくことで子どもたちの成長が見られます。また、季節に合ったイベントや行事を用意し、子どもたちが楽しみながら季節を感じ、様々なことを経験し成長できるよう活動を留意しています。 ・プログラムは曜日で固定しているが、毎回内容を変え工夫している。	・お子様達の発達段階に合わせて、同じプログラムでも内容が固定化しないよう話し合いの場を増やしていく。 ・毎年新たな挑戦のできる活動を立案し実行していく。
	共通	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる個別支援計画を作成し、支援が行われているか。	8		お子様一人一人の発達状況に応じて個別支援計画を用意し、それに沿った支援をおこなっています。	専門的支援を実施していきたい。
	共通	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	1	朝礼での共有、終礼での確認を毎日行っている。	職員個々のスキルを活かし、支援に反映させていく。
	共通	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	1	・朝礼での共有、終礼での確認を毎日行っている。 ・振り返りを行い、継続した支援が出来るよう職員間で情報共有をしている。 ・支援終了後以外に、朝礼でも実施している。	児童帰宅後、記録や事務作業が終わった後に話し合いを行うため就業時間が遅くなってしまったため、作業の効率化を検討していく。
	共通	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		・その日の活動や状況を業務日誌に毎回記録している。 ・支援に必要な事柄はこまめに周知し、職員が共通認識できるようにしている。	記録を見直し記録漏れやミスなどをなくしていく。
	共通	23	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		定期的にケース会議をおこない、支援目標を確認し、支援の見直しを判断しています。	保護者の負担にならないよう早めの日程調整を心がけたい。
	放デイ	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	8		①日常生活の充実と自立支援のための活動 ②多様な遊びや体験活動 ③地域交流の活動 ④子どもが主体的に参画できる活動	(4つの基本活動の)③については立正大学ボランティアさんが主になっているが、地域のイベントなどに参加している。
	放デイ	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7	1	子ども達だけで相談し実行する機会を作っている。	職員同士の共通した支援ができるように日々の共有を持続していく。
共通	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		・基本的には児童発達支援管理責任者が出席をしているが、児童管のみでなく利用者との関係性も見て必要な職員が会議や情報交換に参加している。	管理職以外の職員も参加できるような体制を作っていく。	
共通	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		近隣の小児科(小林医院)と医療協定を結んでいる。また必要に応じて、母子健康センター、市町村、児童相談所、保育、教育等の関係機関と連携している。	関係機関との情報共有の場を多く作っていききたい。	

関係機関や保護者との連携	放デイ	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8		送迎の際に児童の状況等の共有を行っている。	日頃から情報共有が行える関係性を保っていく。
	放デイ	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7	1	必要に応じ担当者会議の実施や保育所、相談支援員との情報共有などを通じ相互理解に努めている。	当事業所からも率先し発信をしていく。
	放デイ	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	3	未回答1。対象者なし。 ・該当がない ・移行したケースがない。 ・事例なし	
	児発	31	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	1	お子様の状況を踏まえ、併用先、保育所、学校と連携を図っている。 ・現在該当者がいない	当事業所からも率先し発信をしていく。
	児発	32	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	1	・必要に応じ担当者会議の実施や保育所、相談支援員との情報共有などを通じ相互理解に努めています。 ・必要に応じて担当者会議を実施、参加している。	当事業所からも率先し発信をしていく。
	共通	33	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5	3	市町村や、相談支援員への相談を行っている。	基本的には相談支援事業所を通しての相談となっているため今後は機会を検討していきたい。
	放デイ	34	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	3	立正大学の主催のイベントに熊谷市の放課後等デイサービスが参加しておりnoone(ノーン)も参加させていただいている。 また、沼田市の事業所と合同で運動会を実施しました。	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機械など、事業所として幅広い活動を取り入れていきたい。
	放デイ	35	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	8		毎回必ず参加しています。 協議会で開催されるオンライン研修会にも参加をしています。年ごとに事業所多くのスタッフが参加できるように体制を作っています。	今後も情報共有の場に参加をしていく。
	児発	36	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4	4	保育所や認定こども園など直接の交流は現状ありませんが、公園など外出時に関わりがあります。	今後機会を増やしていきたいと思えます。
	共通	37	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		職員間で話し合う場（職員会議・ケース会議・朝礼・終礼）を設け、どの職員も保護者と伝え合い共通理解を持てるようにしています。	・今後も毎日丁寧な情報共有を行っていく。 ・保護者の心配しているポイントなどに対してもより丁寧な相談や、情報共有を心掛けていく。
共通	38	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	2	保護者会でお子様と一緒にプログラムに参加していただき日頃の支援の様子を見ていただいている。 ・運動会や保護者会などの機会を設けている。	職員個々の専門性スキルの向上を目指し、多くの職員が研修が出来る状況を作っていく。	
保護者	共通	39	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		見学、契約の際にご説明させて頂いております。また契約後もプログラムの内容は日々お伝えさせて頂いております。	必要に応じ丁寧に説明を行っていく。
	共通	40	こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		権利擁護に関する研修や今回の評価表を参考にご家庭の意向を確認しております。	職員個々の専門性スキルの向上を目指し、多くの職員が研修が出来る状況を作っていく。
	共通	41	「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ているか。	8		本人の意向や状態を踏まえたうえで保護者と面談を行い計画を作成している。計画作成後、契約内容を説明し、同意を得ている。	配布し、説明が不十分になってしまうよう気を付けていく。
	共通	42	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		半年に一回の対面での面談や相談があった時など面談を実施しております。電話での相談も受け付けています。	どんな事でも相談できる場所となれるよう日頃から会話の機会を設けていく。
	共通	43	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8		・今年度は2回保護者会を実施した。 ・保護者会を実施している。	・多くのご家庭が参加できるよう考えていく。 ・早めの日程調整で、保護者の日程調整がやりやすくなるよう進め、参加を促していきたい。
	共通	44	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		電話や面談のやり取りの中で、保護者様の悩みの理解に努め、支援中のお子様の様子から窺える理解やそれに基づいた助言を行えるよう支援していけるよう努めます。児童やご家庭で少しでも変化があった場合は事業所から	適切で迅速な対応ができるよう日頃から共有を図っていく。

への説明等	共通	45	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8		定期的な面談時の際に活動写真の共有や法人HPへの掲載を活用し事業所の活動内容を発信している。	・以前、プログラムの内容をLINEで送信していたが、最近出来ていない。 ・SNSの活用頻度を多くしていく。
	共通	46	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		個人情報は鍵付きの書庫にて管理している。また、契約時に取り交えていただいた個人情報の取扱いについて細心の注意を払って管理しております。また、SNS等で事業所の情報配信を行なっているが細心の注意を行った上で行なっている。	引き続き個人情報の取扱いについて徹底していく。
	共通	47	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		保護者様との連絡手段はなるべく保護者様の負担とならないように配慮し、児童には発達段階、発達状況にあった意思の疎通の工夫をしている。	日頃よりコミュニケーションを率先し行っていく。
	共通	48	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	3	・近隣の大学生がボランティアで参加している。 ・地域の方に向けたお祭りや発表会のような行事は設けておりませんが、事業所として、立正大学の学生のボランティアさんを受け入れたり、地域のイベント事の参加をしております。また、支援学校や支援学級を目標としている学生のアルバイトやボランティアの受け入れを積極的に行なっています。	事業所からの発信を率先し行っていく。
非常時等の対応	共通	49	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		マニュアルについて職員会議にて対応方法等の確認を行っております。マニュアルについても必要に応じて見直ししていきます。	周知いただけるよう定期的に案内を出していく。
	共通	50	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		・消防、水防訓練を実施している。 ・お子様も参加の上、年に2回以上の総合訓練(通報訓練、避難訓練、消火訓練)を行っています。また、水防訓練も行っています。	周知いただけるよう定期的に案内を出していく。
	共通	51	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8		年度の始めに服薬等について確認を行っている。	一覧表、マニュアル、フローチャートの見直しを定期的におこなっていく。
	共通	52	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	1	年度の始めにアレルギーについてアンケートを配布し確認を行っている。	定期的に全体の場で確認、振り返りをしていく。
	共通	53	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		安全計画を作成し、事故防止、災害防止、緊急時、感染予防など事業所運営に係る安全管理を計画的におこなっております。	安全が不十分、危険が予測される場合はすぐに全体で話し合う場を設ける。
	共通	54	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		安全計画は玄関横に掲示してありますが、より周知を図っていきます。	周知いただけるよう定期的に案内を出していく。
	共通	55	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		事例があった場合、ヒヤリハット・事故報告書に記載し、ミーティングを通して職員間で共有しています。	小さなことでも作成し共有することで職員一人一人意識を高めていく。
	共通	56	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		障がい者虐待防止研修の参加や虐待防止に関する責任者(児童発達支援管理者)を選定し、施設内研修を行い、施設外研修に参加しています。また、法人内で虐待防止委員会を設置し定期的に委員会を行なっています。	虐待は絶対にあってはならない事であり定期的な研修を行っていく。
共通	57	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載しているか。	8		身体拘束に関しては、お子様の生命や身体を保護するため緊急を要する場合に、切迫性・非代替性・一時性であることを条件に行うことを職員の共通認識とし、行った場合は記録に残すこととしています。対象お子様がいる場合は組織的に決定し、個別支援計画に記載する体制があります。「必要に応じて身体拘束に関する同意書」を保護者様へ説明し同意を頂いております。	基本的には実施しないが必要に応じて丁寧な説明を行う。	